



日本のジオパーク

日本のジオパークネットワーク（JGN）は、日本国内のジオパーク（ジオパークを含む地域）による国際連携組織です。ジオパークネットワークは、ジオパークをもつたる地域が持つ多様な資源を活用して、持続可能な社会の実現を目指す活動を行っています。

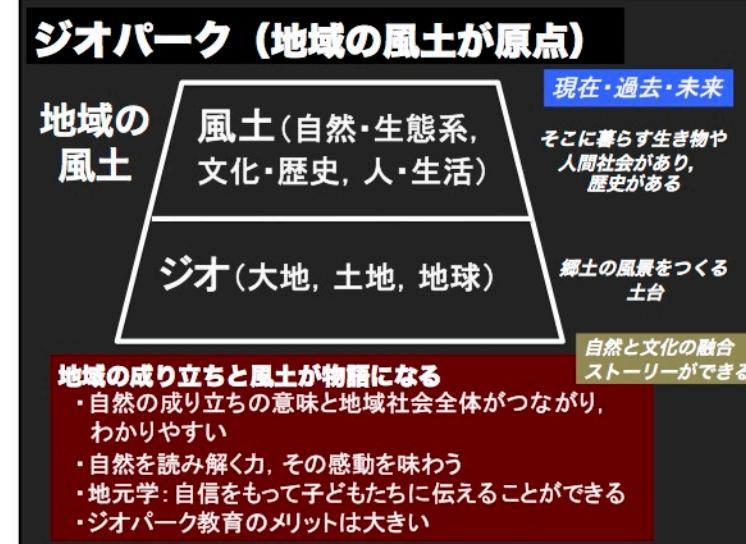
日本のジオパーク(43地域)
世界ジオパーク認定(8地域)
日本ジオパーク認定(35地域)

ジオパーク:
地域の貴重な地質・自然遺産を保護しつつ、それを観光・教育資源として活用し、地域振興や防災に活かしていく。

環境保護・保全
地形、地質、特異な生態系など「大地の遺産」を保全する

教育
学校教育・生涯教育を行い、次世代を育成する

地域振興
ツーリズムや地場産業を通じて地域の発展に寄与する



小学校の理科学習指導要領

目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての美感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

生物、天気、川、土地などの指導については、野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに、自然環境を大切にし、その保全に寄与しようとする態度を育成すること。

- ・観察、実験や自然体験、科学的な体験を充実させることによって、……
- ・博物館や科学学習センターなどと連携、協力を図りながら、積極的に活用する……

中学校の理科学習指導要領

- ・観察、実験、野外観察を重視するとともに、地域の環境や学校の実態を生かし、
- ・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が育成されるようにすること。

「理科」の目標

日本的な自然観の要素

自然に親しむ
自然を愛する心情を育てる

自然科学的な自然観の要素

観察・実験などを行う
問題解決の能力を育てる
自然の事物・現象についての理解を図る
科学的な見方や考え方を養う

中村桂子（「科学者が人間であること」、2013、岩波新書）

白滝小学校による
「石育」
(柴瀬 元白滝小学校長)

「石とふれ合い、
石に学び、石と
生きる」

ふるさとを知る
石育活動
・ジオパーク活動と一体
・連携と体験活動
・郷土への誇りと自信



学校教育にジオパークを導入するメリット

小山真人(2012)

- (1) またとない郷土教育のチャンス
- (2) 総合的な学習の時間における格好のテーマ
- (3) 学習指導要領との合致
- (4) 国際標準的な学力との合致
- (5) 理科教育・社会科教育・外国語教育の深化
- (6) 野外活動の好機
- (7) 防災教育としての機能
- (8) 観光関連業務に携わる即戦力養成

実践例 白滝ジオパーク
遠軽高校 「オホーツク風土研究」、「ふるさと学」
白滝小学校 「石育プログラム」

